

三重県競技力向上対策本部

第11回本部会議



令和5年6月28日（水）

プラザ洞津

三重県競技力向上対策本部 第11回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第11回本部会議 式次第	P	3
○ 報 告 事 項		
(報告事項1) 委員及び役員の変更	P	7
(報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P	8
(報告事項3) 特別国民体育大会冬季大会三重県選手団報告	P	12
(報告事項4) 令和4年度補正予算(専決処分)	P	14
(報告事項5) 三重県競技力向上対策本部第18回及び第19回競技力向上対策委員会概要	P	15
(報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第19回競技力向上対策委員会決定事項	P	22
(報告事項7) 三重県競技力向上対策本部規約改正(専決処分)	P	62
(報告事項8) 令和5年度暫定予算(専決処分)	P	63
○ 審 議 事 項		
(第1号議案) 令和4年度事業報告(案)	P	66
(第2号議案) 令和4年度収支決算(案)	P	69
(第3号議案) 令和5年度事業計画(案)	P	71
(第4号議案) 令和5年度収支予算(案)	P	73
○ そ の 他		
(情報共有事項1) 競技力向上対策委員会委員の変更	P	76
(情報共有事項2) 三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針	P	77
(情報共有事項3) 第3次三重県スポーツ推進計画	P	78

三重県競技力向上対策本部 第11回本部会議 式次第

令和5年6月28日(水)
プラザ洞津 2階 飛翔の間

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

- (報告事項1) 委員及び役員の変更
- (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- (報告事項3) 特別国民体育大会冬季大会三重県選手団報告
- (報告事項4) 令和4年度補正予算(専決処分)
- (報告事項5) 三重県競技力向上対策本部第18回及び第19回競技力向上対策委員会概要
- (報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第19回競技力向上対策委員会決定事項
- (報告事項7) 三重県競技力向上対策本部規約改正(専決処分)
- (報告事項8) 令和5年度暫定予算(専決処分)

4 審議事項

- (第1号議案) 令和4年度事業報告(案)
- (第2号議案) 令和4年度収支決算(案)
- (第3号議案) 令和5年度事業計画(案)
- (第4号議案) 令和5年度収支予算(案)

5 その他

- ・ 情報共有事項
 - 1. 競技力向上対策委員会委員の変更
 - 2. 三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針
 - 3. 第3次三重県スポーツ推進計画
- ・ その他

6 閉 会

報 告 事 項

委員及び役員の変更

	選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
委 員	県議会関係	三重県議会議長	中森 博文	前野 和美
	市町関係	三重県市長会会長	前葉 泰幸	末松 則子
	教育関係	三重県教育委員会教育長	福永 和伸	木平 芳定
	産業・経済関係	三重県経営者協会会長	小倉 敏秀	原 恭
		三重県商工会議所連合会会長	伊藤 歳恭	種橋 潤治
	学校・スポーツ 団体関係	三重県立学校長会会長	辻 成尚	三重県高等学校 体育連盟会長 野垣内 靖
		三重県小中学校長会会長	山下 隆久	三重県中学校 体育連盟会長 北村 浩久
	学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院 附属クリニック院長	加藤 公	藤澤 幸三
		三重県障がい者スポーツ協会会長	前田 浩司	平井 一正
		三重県弓道連盟副会長	伊藤紀美子	福田るり子
	監 事	学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会 監事	溝田 久孝

三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月1日	三重県競技力向上対策本部「第8回本部会議」を開催しました。
令和3年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第15回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月1日	三重県競技力向上対策本部「第9回本部会議」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第16回競技力向上対策委員会」を開催しました。

令和4年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第17回競技力向上対策委員会」を開催しました。
6月20日	三重県競技力向上対策本部「第10回本部会議」を開催しました。
11月15日	三重県競技力向上対策本部「第18回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和5年 3月20日	三重県競技力向上対策本部「第19回競技力向上対策委員会」を開催しました。

特別国民体育大会冬季大会三重県選手団報告

入賞一覧（個人種目）

順位	競技名	種別	種目	氏名	所属 《ふるさと登録》	得点
1	スケート (スピード)	成年男子	500m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	8点
3	スケート (スピード)	成年男子	1000m	辻本 一史	(公財)三重県スポーツ協会	6点
	スキー (クロスカントリー)	成年女子 B	5kmクラシカル	渡邊 祐佳	(公財)三重県スポーツ協会	6点
4	スキー (ジャイアントスラローム)	成年女子 B	ジャイアントスラローム	中澤 真緒	(公財)三重県スポーツ協会	5点
5	スケート (スピード)	成年男子	500m	森本 拓也	(公財)三重県スポーツ協会	4点
	スケート (スピード)	成年女子	3000m	富田 裕香	(公財)三重県スポーツ協会	4点
7	スケート (スピード)	成年女子	1500m	富田 裕香	(公財)三重県スポーツ協会	2点

特別国民体育大会冬季大会

男女総合成績（天皇杯）順位 22位

競技得点 35点

得点合計（参加点含む） 65点

女子総合成績（皇后杯）順位 19位

競技得点 17点

得点合計（参加点含む） 37点

特別国民体育大会冬季大会都道府県総合成績一覧

報告事項3-2

No.	都道府県名	男女総合成績（天皇杯）					女子総合成績（皇后杯）			
		得点合計	順位	スケート	アイスホッケー	スキー	得点合計	順位	スケート	スキー
1	北海道	461.50	1	193.00	90.00	178.50	155.00	2	96.00	59.00
2	青森県	177.00	3	83.00	65.00	29.00	66.00	9	54.00	12.00
3	岩手県	128.00	11	70.00	10.00	48.00	72.00	4	57.00	15.00
4	宮城県	69.00	21	34.00	25.00	10.00	41.00	15	31.00	10.00
5	秋田県	157.00	9	10.00	10.00	137.00	68.00	6	10.00	58.00
6	山形県	143.00	10	75.00	10.00	58.00	67.00	8	48.00	19.00
7	福島県	41.50	27	15.00	10.00	16.50	27.50	25	15.00	12.50
8	茨城県	40.00	28	12.00	10.00	18.00	28.00	23	10.00	18.00
9	栃木県	88.00	17	32.00	35.00	21.00	36.00	20	15.00	21.00
10	群馬県	174.00	5	114.00	10.00	50.00	72.00	4	50.00	22.00
11	埼玉県	170.00	6	89.00	65.00	16.00	46.00	13	36.00	10.00
12	千葉県	54.00	24	19.00	25.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
13	東京都	176.00	4	94.00	65.00	17.00	66.00	9	52.00	14.00
14	神奈川県	108.00	12	86.00	10.00	12.00	68.00	6	58.00	10.00
15	山梨県	84.00	18	64.00	10.00	10.00	38.00	16	28.00	10.00
16	新潟県	106.00	13	10.00	10.00	86.00	38.00	16	10.00	28.00
17	長野県	361.00	2	162.00	40.00	159.00	165.50	1	101.00	64.50
18	富山県	90.00	16	31.00	10.00	49.00	48.00	12	30.00	18.00
19	石川県	42.00	26	10.00	10.00	22.00	14.00	38	0.00	14.00
20	福井県	40.00	28	10.00	10.00	20.00	10.00	39	0.00	10.00
21	静岡県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
22	愛知県	168.00	7	128.00	30.00	10.00	56.00	11	46.00	10.00
23	三重県	65.00	22	34.00	10.00	21.00	37.00	19	16.00	21.00
24	岐阜県	95.00	15	38.00	10.00	47.00	24.00	28	14.00	10.00
25	滋賀県	49.00	25	18.00	10.00	21.00	28.00	23	12.00	16.00
26	京都府	83.00	19	58.00	15.00	10.00	38.00	16	28.00	10.00
27	大阪府	83.00	19	63.00	10.00	10.00	34.00	21	24.00	10.00
28	兵庫県	162.00	8	142.00	10.00	10.00	105.00	3	95.00	10.00
29	奈良県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
30	和歌山県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
31	鳥取県	36.00	31	16.00	10.00	10.00	26.00	26	16.00	10.00
32	島根県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
33	岡山県	38.00	30	16.00	10.00	12.00	23.00	29	13.00	10.00
34	広島県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
35	山口県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
36	香川県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
37	徳島県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
38	愛媛県	35.00	32	15.00	10.00	10.00	25.00	27	15.00	10.00
39	高知県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	10.00	39	0.00	10.00
40	福岡県	97.00	14	72.00	15.00	10.00	45.00	14	35.00	10.00
41	佐賀県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
42	長崎県	20.00	43	0.00	10.00	10.00	0.00	46	0.00	0.00
43	熊本県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
44	大分県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	0.00	46	0.00	0.00
45	宮崎県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	20.00	30	10.00	10.00
46	鹿児島県	60.00	23	40.00	10.00	10.00	34.00	21	24.00	10.00
47	沖縄県	30.00	33	10.00	10.00	10.00	10.00	39	10.00	0.00

令和4年度補正予算(専決処分)

1 収入

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額
負担金	404,486	0		404,486
収入合計	404,486	0		404,486

2 支出

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正予算の内容	補正後予算額
会議費	4,612			4,612
チームみえスーパー ジュニア強化指定事 業	9,000	△ 1,800	強化指定選手の減	7,200
チームみえ国体選手 強化事業	252,232			252,232
三重県アスリートタレ ント発掘・育成事業	10,000			10,000
大学運動部、企業・ク ラブチーム強化指定 事業	30,000	11,500	各チームへの強化費増額	41,500
オリンピック等選手強 化指定事業	3,600			3,600
パラリンピック等選手 強化指定事業	8,700			8,700
ふるさとタレントアス リート強化指定事業	7,000			7,000
トップアスリート応援 事業	10,100			10,100
みえのアスリート応 援・発信事業	7,612	△ 1,200	事業費精査による減	6,412
競技団体・チームサ ポート事業	3,062			3,062
チームみえ・コーチア カデミーセンター事業	58,553	△ 8,500	マルチサポートの見込み減	50,053
事務局費	15			15
支出合計	404,486	0		404,486

三重県競技力向上対策本部第 18 回競技力向上対策委員会概要

令和 4 年 1 月 15 日 (火)
三重県総合文化センター中会議室

1 安定期における競技力向上に係る取組等について

(1) 今後の目標設定について

- ・ 今後、厳しい東海ブロックをどうクリアしてくのかが知りたい。
- 今年の反省ふまえ事務局と競技団体に協議検討する。
東海ブロック通過に向け、対象となる県に対し、作戦をたて、国体のレギュレーション対策も十分におこないながら、戦力を整えていきたい。
- ・ 陸上は、東海ブロック予選はないが、課題クリアするために、競技団体と県がしっかり協議する場と人が必要。それがないと強化が難しいのではないか。今まで通りやっても東海ブロック予選を通過できない。普及していない競技を強化して効率よくポイントを取る等、取り組み方の変革が必要。真剣に方策を（県として）考えるべきではないか。
- 県としてもしっかり現場に出向いていくようにする。競技力の様々な視点を再度見直し、いつ何をどうすべきかを見極めて支援していきたい。
- ・ 鹿児島国体に向けての予算の方向性見、通しを教えて欲しい。
- 栃木国体での成果は、これまでの取組および三重国体にむけてのノウハウを活かした成果であると捉えており、引き続き予算確保に向けて現在取り組んでいる。
- ・ 国体開催県のその後について、点数減の県が多いが、三重県としてはどう考えているのか教えてほしい。
- 2026 年までは 10 位台前半を目標としている。
- ・ 事務局としては、1300 点を目標としているが、鹿児島国体ではどのくらい見込めると考えているか。
- 今年に匹敵する戦力を備えていると見込んでいる。
- ・ 1325.5 点以上の点を獲得する力が（三重に）あると考えるのであれば来年の目標を 1325 点としてはどうか。
- 鹿児島国体、その後にむけての目標は「点数 1325.5 点以上を獲得し、10 位台前半を目標とする。」こととし、次回の本部会議に提案する。(承認)

(2) 少年種別の強化・ジュニア世代の育成について

- ・ 中体連の部活動の社会体育化に伴って、中体連の優秀な指導者が活動場所を失うことが、三重県のスポーツにとって損失である。中体連の指導者が、身分保障をされたうえで、社会体育で活躍できる環境を作っていただきたい。優秀な先生（指導者）の指導の場をなくすのはどうか。先生が、地域スポーツの場で活躍できる仕組み体制づくりを考えてもらえないか。
- 部活動の地域移行については 6 月にスポーツ庁が提言し、今後部活動ガイドラインが改定される予定。少子化の中でスポーツの場を保証することが必要と考えている。

兼職兼業については、生徒たちのスポーツの機会を奪わないように確保することが重要である。地域の実情の中、教員の希望を聞きながら地域の移行後も教員も参加できるようスポーツ庁、市町村で検討している。

- ・ ボート競技では、成年選手（県外の）が国体後、夏以降に少年の選手により指導してくれ、効果がでてきている。マイナースポーツでは、地域移行を活用して、良い選手が発掘し育成することができるチャンスととらえている。
 - ・ 少年種別の強化について、継続した取組が必要。企業スポーツからも協力していただける形も継続して行ってほしい。
- ホンダヒート様においては、少年種別の指導も含めてありがたく、少年種別も刺激をもらっています。今後もお願いします。
- ・ 入試制度について、県外生徒受入については、強化指定クラブが複数ある学校ほど、思うように選手を獲得できない現状がある。枠が少なく入れない選手がいる。
- 5%枠の制度を変えるのは難しいが、全体の数字を前期にふる方向で検討されているところである。

(3) 成年種別の強化について

① 就職支援事業について

- ・ 実際に仕事をしたら、なかなか競技に打ち込めないという現状がある。
 - ・ 選手によっては、職場からの理解や配慮がなされていないこともあった。
 - ・ アスジョブに掲載する企業の見直しを含め、整備をすべきではないか。また、採用選手の現状把握や改善も必要ではないか。実際に競技と両立できるかを精査して企業斡旋していくべき。
 - ・ 成年種別で三重国体に向けて取り組んできた選手の動向を教えてほしい。
- 三重国体をピークに引退する人もいた。来年については引退する人もいるが、概ね継続する。
- ・ 成年の得点は2年後に落ちる傾向にあるが、どうすれば成年のトップ選手が残ってくれるのか。得点を取れる選手が残れる環境整備とシンボリックチームの確立が必要。シンボルチームや企業があれば、三重に残ってくれるのでは。
- 三重国体に向けて創設したチームが8チームあるので大事にしたい。三重を代表するチームとして、さらに活躍してもらおう。三重を希望してもらえようようにする。団体チームの選手補強にもあてていきたいと考えている。

② 指導員の制度について

- ・ できるだけ（人数も含め）現状維持する必要がある。特にジュニアに対しては、目の前にトップの選手がいる効果は大きく、アスリートとしてのマナーを学べるとともに、競技への向上心も高められる。
- 指導員は、重要な役割。少年種別への影響も大きく、意識向上、競技力向上につながる。就職支援事業については、県スポーツ協会と連携して続けていきたい。
- 競技生活を終わったら、地域で指導者になっていただくことも期待している。
- ・ トップ選手などの存在や指導は、ジュニアの育成や普及に影響大。チーム

の運営・環境整備には、人材が必要であるので、スポーツ指導員の事業は大切。

(4) 指導者について

- ・ 医・科学分野については、三重県には、科学がない。分析の場面で動作分析ができていないなど、遅れていると思っている。科学・栄養の活用、指導をしっかりと進めるべき。今後他県から遅れをとるのではないかと。陸上は、バイオメカニクスを活用した強化をしている。
- 三重大学教授らが、30年くらいかけてスポーツについて地道にいろいろとやっている。複数年競技団体に関わって取り組んできているものもあり、三重国体に向けてスポーツドクター、薬剤師、栄養士、心理学等の分野の担当も現場に近いところでやってきた。三重大とも連携してやってきている。物足りる予算ではないが、「更に」というのであれば競技団体からもアプローチしてきてほしい。
- チームみえコーチアカデミーセンター事業では、指導者を受講生として招いている。これまでは、体づくりのトレーナーが多かったが、メンタル、フィジカル、栄養などのサポートの必要性に受講生が気づき、指導の現場に入れないといけないという意識で取り組んでくれている。それらを活用して選手をトータル的にサポートできたことは成果である。

2 パラアスリートの強化について

- ・ 水泳は昨年代替大会にパラ選手も出場してもらい、良い雰囲気の中で行えた。一緒にやっていける種目なので、このような取組は大切と考えている。
 - ・ パラアスリートを含めた強化は大切であり、一緒にできる部分も多くある。できる、できないにとらわれず、一緒に考えて強化連携していくことが三重にとって大事。県の事業としても必要だと思う。
 - ・ 支援の制度がないのが現状。会社で支援されない。金銭面は苦しい。陸上はブレードが高価、企業からも資金もらえない。さらに、パラアスリートは一人で活動できないことが多く、介助する人の資金等も必要。ブラインド、デフもできない。どうしていくのか、何が必要かをしっかり検討する必要がある。パラアスリートの環境整備、配慮について、会社にも働きかけていくべき。陸上競技としてもサポートしていきたいと考えている。県としても働きかけをお願いしたい。
- 今年度から事業を開始している。皆さんの意見を参考に、模索しながら進めていく。

3 情報共有

- ・ 結果が残せなかった競技団体は今後どのようにすれば良いか、何が課題で何が必要かを事務局と連携して、3年スパンで課題解決に向けてすすめるとよい。
- ・ ジュニア・少年の強化費は、単に合宿などに利用するのではなく、医・科学

サポートに活用するなどして、普段、活用していない医・科学サポートの活用を推進するなどしてはどうか。基盤的強化費は、合宿など、戦略的強化費は、医・科学サポートに活用するなどしてはどうか。また、東海ブロック大会や国体期間中の医・科学サポート活動を現地で行ってはどうか。ゲーム分析やメンタル、コンディションサポートなど。

- ・ 国体の成績が良いと三重県民にとって、どういう意義があるのかを掘り下げて数値化できれば良い。県民の運動参加が増加、意識が高まったなど。知事のようにスポーツから遠い人たちをいかに巻き込むかは、この辺りの分析によるエビデンスが必要。コーチアカデミーや医・科学サポート活動の充実のためには予算をしっかりと確保する必要があるので、継続した予算措置をお願いしたい。
- ・ 三重国体目指してきた10年は、無駄ではない。来年からの5年はフェーズを変える必要があると考えている。これまでの成果はあった。これからをどうするか考えるのが事務局・競技団体。40競技すべてに「勝て！」はあり得ない。どうやって強化するかを考えるべき。県外から獲得するのか、5年10年かけて育成するのか。
- ・ ブロックの突破についてどう取り組むかについて、「体操」競技少年の部での入賞は、小学生のころから育成してきた成果。良い選手をつれてきて育てる、競技団体のプラン・実行力が大切。企業は、チームを表に出そうと考えている。県はもっと競技者に配慮し、選手をどう育て、どうアピールしていくか、スポーツ、競技をどう知ってもらおうか、どう発信するかをしっかりと考える必要がある。スポーツ指導員の活用についても大胆な方策をたて実行する必要があるのでは。大きな改革を。予算減の見通しある中、どう活用するかしっかりと考えていってほしい。パラとのバランスも検討しておくことも大切。競技スポーツとは、「みんなを笑顔にできるのは、勝つことではとったりもする」この10年を、2年で無駄にしないために、今後も委員の皆さんと心一つに取り組んでいきたい。

三重県競技力向上対策本部第 19 回競技力向上対策委員会概要

令和 5 年 3 月 20 日 (月)
プラザ洞津 飛翔の間

1 令和 5 年度の競技力向上に係る取組等について

- ・ 中学校では、来年度から部活動の地域移行が進んでいくため、その部分が上手くジュニア育成とつながり、その選手たちが中学生世代、高校生世代で国体の得点につながるようにしてもらいたい。
 - ・ 高体連として高等学校運動部強化指定事業を行っていく中で、各競技団体と連携を取りながら引き続き栃木国体のような成績を出せるよう取組を進めたい。
 - ・ 三重国体を目指して県外から外部指導者を招聘していたが、今年は 1 回だけになってしまった。国体の剣道競技は、50 歳代の選手も出場するため、幅広い選手を指導していただける外部指導者の存在が重要だと考えている。今後とも来ていただき支援を継続して行っていただけるとありがたい。
 - ・ 県立学校の入学者選抜における保護者の転住を伴わない県外からの入学志願について、獲得（5%）について検討していただきたい。
- ⇒ 保護者の転住を伴わない生徒の入学者数について、これまで学科・コースの入学定員前期・後期ともに全体の枠の 5% でした。この入試制度を活用する学校から、前期で多くの選手を獲得したいという意見をいただいたことを受け、令和 6 年度実施の入学者選抜において、全体の枠の 5% を変更することはしないが、総数の中で、前期・後期の人数割合を弾力的に運用できることとしています。
- ・ 愛知県では、サッカーで 250 名ぐらい県外へ出ていくが、それぐらいの人数が逆に愛知県に入っていて、国体でも成績を収めている。東海 4 県でも差がある。全国的な状況を確認してほしい。
- ⇒ 流出を阻止するために、流出しないような仕組み作りや三重県での競技力向上の取組を充実させ、三重県にいることにメリットを感じさせることが重要であると考えています。
- ・ 医・科学分野で競技団体が相談できる窓口がありますか。
- ⇒ 公益財団法人三重県スポーツ協会では医・科学委員会を設置しています。また、三重県競技力向上対策本部にご相談いただくことができます。
- ・ 地域移行のところで全国的にルールが定まっていないことを伺った。若い世代が色々なスポーツに取り組める良い機会だと思います。保険の問題や地域移行を行っていくうえでのルールがあやふやな部分があるので、三重県として地域移行がしやすい方向性を定めていただけると、より良いものが作れると考えています。
- ⇒ 県教育委員会と連携しながら進めてまいります。保険や兼職兼業等の問題については、国の状況等情報収集を行い、適宜競技団体の皆様と情報を共有し、進めてまいります。

- ・ 三重国体に出場するため、中学3年生が県内に残ってくれたのでその選手たちが今後戦力になってくれる。その選手を今後どのように指導していくかというところを三重県水泳連盟として強化していく、重要な期間である。
 - ・ ポート競技では、栃木国体で成年女子がはじめて7位入賞した。競技用具や色々な事業でご協力いただいた。スポーツ指導員の配置事業について、ポート競技の選手が少年選手を指導していただき、指導してもらっている選手が目に見えるように成長しているのがわかる。スポーツ指導員の事業継続及びマイナースポーツの教員の拡充も検討していただきたい。
- ⇒ スポーツ指導員配置事業につきましては、来年度も引き続き実施します。ポート競技の選手については、自分自身の強化に加えて、ジュニア選手の指導に大きく携わっていただいています。

2 令和5年度競技力向上対策事業について

- ・ 怪我や故障をした場合は、地元の病院に受診していただいた方が良い。チームドクターやゲームドクターのシステムを作るのは難しい。
 - ・ 指定されたチームや選手にアンケートを実施されたことはありますか。また、選手からフィードバックをする仕掛けがありますか。ユースオリンピックやオリンピックの選手のヒストリーを調査しており、そのヒストリーを知ることによって望ましいジュニア育成・強化のあり方をまとめることをしている。三重県もアンケートを実施することで今後の三重県の財産になる。
- ⇒ 各競技団体に対して、競技担当による状況の聞き取りを行っていますが、アンケートを実施したことはありません。今後、検討することとします。
- ・ 地域移行について国が令和5年度から3年間で「改革推進期間」にすることになっている。昨年12月に「改革集中期間」から変更したが、国としては地域移行をやめたわけではない。各市町の事情もあるため、市町と連携しながら地域の需要に合わせて実施していく必要がある。
 - ・ 伊勢市スポーツ協会を通じて、ジュニア育成や競技力向上の取組を今後も行っていきたい。
 - ・ エクセディでは、卓球の成年女子とサッカーの成年女子を企業としてサポートしている。予算を東海ブロックまで配分するという考え方について賛成する。
 - ・ 鹿児島国体に向けて幅広く取り組んでいると感じる。一方で選手の県外への流出が止まらないという意見があったが、流出する理由があれば教えていただきたい。
- ⇒ 県外へ流出する原因は、競技によって様々であると考えています。今日、選手にはとって、多くの情報が容易に入る時代になったことで、選択肢が増えたことが大きな要因の一つと考えています。また、学校という枠にとらわれることがなくなり、クラブチームへ進む選手もいます。選手はスポーツを行ううえで経済面や選手としての最終目標を考え、県外を選択する場合があります。
- ・ 指導者を育成していきたいが、授業で抜けることが出来ない等の課題があ

る。チームみえ・コーチアカデミーセンター事業の研修については、素晴らしい。そういった研修が末端の指導者もできるといい。タレントを発掘する指導者を育成してもらいたい。

⇒ チームみえ・コーチアカデミーセンター事業をとおして、医・科学の専門家がスタッフとして当たり前のように強化活動に携わるようになったことで、現場が変わってきたと考えています。

- ・ 令和6年度、令和7年度、令和8年度も継続して今と同規模予算の獲得に向けて、ご尽力いただきたい。
- ・ 地域移行をどのように行っていくかではなくて、地域移行をどのように競技力向上対策へつなげていくかが大事だと考えている。例えば、水球では中学校に部活動がないが高校で全国優勝できる選手が育っている。それはジュニアクラブで育った選手が県内の高校へ進学している好循環が出来ている。競技力向上につなげていくためには、学校という概念を捨てて、平日は学校で、土日は地域の方々の手で育ててもらえれば良い。令和9年から先は、地域移行という名の文化の仕組みづくりを三重県ができるようになると、水球や相好体操クラブのように好循環が起きる。

令和5年度競技力向上対策事業について

	事業名	対象
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業	
③	高等学校運動部強化指定事業	
④	チームみえスーパージュニア強化指定事業	
⑤	三重県アスリートタレント発掘・育成事業 (MIEスーパー☆プロジェクト)	
⑥	トップアスリート応援事業	
⑦	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通
⑧	女性アスリートサポート事業	
⑨	パラリンピック等選手強化指定事業	
⑩	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手
⑪	オリンピック等選手強化指定事業	
⑫	トップアスリート就職支援事業	
⑬	ふるさとタレントアスリート強化指定事業	
⑭	スポーツ指導員配置事業	指導者
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	
⑯	競技用具等整備事業	環境整備
⑰	競技団体・チームサポート事業	
⑱	みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発

チームみえジュニア育成事業 実施方針

令和5年度当初予算【30,000千円】

1 目的

全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手（小学生・中学生）を「チームみえジュニア」として指定し、その育成・強化を目指した活動を支援するとともに、スポーツ体験会による新たなジュニア選手の発掘を支援することなどにより、長期的で持続可能な競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県スポーツ協会加盟の国民体育大会の正式競技である競技団体。

3 実施内容

- (1) ジュニア選手（小学生・中学生）に対し、三重県競技力向上対策本部長が「チームみえジュニア指定証」を交付する。
- (2) 各競技団体が取り組む、「チームみえジュニア」の活動を支援するため、必要な経費（以下、「強化費」という）を配分する。
- (3) 配分については、各競技団体の強化計画等に応じて配分する。
- (4) 強化費については、チームみえジュニアの育成・強化に対して実施する強化・育成活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。
- (5) 各競技団体が実施するスポーツ体験会のチラシを作成し、県内小中学校へ配布する。

4 年間計画

4月	強化費の配分額決定
5月	チームみえジュニア決定・指定証発行
4～3月	強化活動支援
7、1月	スポーツ体験会のチラシ配布
8～3月	各競技団体によるスポーツ体験会の実施

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【4,500千円】

1 目的

今後の国民体育大会等において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技で、国民体育大会の少年種別での出場と活躍に繋がる実績等を有し、今後も、将来の少年種別を担う選手の育成の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部。

3 実施内容

- (1) 強化指定の決定については、別途定める「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、令和5年4月から令和6年3月までの単年度指定とする。
- (3) 全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|------|--------------------|
| 4月 | ジュニアクラブ・運動部強化指定の決定 |
| 4～3月 | 強化活動支援 |

ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業」に係る指定ジュニアクラブ・運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

選考については以下のとおりとする。

なお、選考にあたっては必要に応じて、競技団体と協議の上、決定するものとする。

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) 選考基準

今後も、将来の少年種別を担う選手の育成・強化の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部で次の基準のすべてを満たすもの。

- ① 国民体育大会の正式競技で、全国大会（※1）での活躍を目指し、ジュニア選手の育成・強化を担うジュニアクラブ・運動部
- ② 国民体育大会の少年種別において、三重県選手としての出場実績（※2）を有するジュニアクラブ・運動部
- ③ 全国大会（※1）での実績（※3）を有するジュニアクラブ・運動部

※1 全国大会

- ア 全国中学校体育大会
- イ ジュニアオリンピック
- ウ ア・イと同等のレベルと認められる大会

※2 出場実績

過去3年間における国民体育大会への出場実績

※3 全国大会での実績

- ア 令和3年度～令和4年度の全国大会（※1）で、個人競技、団体競技を問わず8位以上の入賞実績を有する。
- イ この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

報告事項6-2-3
 令和5年3月20日
 第19回競技力向上対策委員会決定

令和5年度強化指定ジュニアクラブ・運動部

ジュニアクラブ・運動部名	競技名（種目名）
三重ダイビングクラブ	水泳（飛込）
みえA.S.C	水泳（A.S）
リヴィエール三重	水泳（水球）
Ocean Bear's	
三重グリーンテニスクラブ	テニス
宮川ボートクラブ	ローイング
相好体操クラブ	体操（競技）
四日市メリノール学院中学校女子バスケットボール部	バスケットボール
四日市メリノール学院中学校男子バスケットボール部	
INABEレスリングアカデミー	レスリング
みえウエイトリフティングジュニアクラブ	ウエイトリフティング
松生TTC	卓球
21クラブ	
KO-WALL三重	スポーツクライミング
STAR WALL	
鈴鹿ジュニアボウリングクラブ	ボウリング

16クラブ

高等学校運動部強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【13,154千円】

1 目的

国民体育大会等の全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

次に該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国民体育大会の正式競技であり、公益財団法人三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

3 実施内容

(1) 指定期間

- ① 指定期間は、令和4年4月から令和7年3月までの原則3年とする。
- ② 指定を受けた高等学校運動部は、3年継続して指定し、指定最終年度に、見直すこととする。
- ③ 指定期間内にあっても、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」とする。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。

(2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会

(以下、「県教委」とする。)と協議したうえで、次のように指定する。

- ① 指定候補について、別紙推薦要領に基づいて活動状況や国体強化の中心となる位置づけ、全国大会において入賞が見込める運動部かを判断する。
なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。
- ② 指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。
- ③ 強化活動の支援の配分については、指定決定後、対策本部が活動状況、令和5年の全国大会における有力選手の状況を調査したうえで令和5年4月に決定する。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|-------|------------|
| 4月 | 強化指定運動部の決定 |
| 4月～5月 | 指定証交付式 |
| 4月～3月 | 強化活動の支援 |

高等学校運動部強化指定事業 推薦要領

1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」とする。）に加盟する競技専門部に所属する高等学校運動部。
- (2) 国民体育大会の正式競技で、三重県スポーツ協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」とする。）に所属する高等学校運動部。

2 推薦基準

- (1) 全国大会において活躍するトップアスリートの育成に向けて、国民体育大会で三重県代表チームの強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 各競技専門部において指定する上限数は別表のとおりとする。

3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、実態として男女別々に活動している場合は男子・女子を区分し、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。

【別表】 令和5年度強化指定運動部 各競技別推薦数

	競技名	強化指定運動部(枠数)	
		男子	女子
1	陸上競技	6	
2	水泳(競泳)	1	
	水泳(飛込)	—	—
	水泳(水球)	1	
	水泳(AS)	—	—
3	サッカー	1	1
4	テニス	1	1
5	ローイング	1	1
6	ホッケー	1	1
7	ボクシング	1	
8	バレーボール	1	1
9	体操(競技)	1	1
	体操(新体操)	—	—
10	バスケットボール	1	1
11	レスリング	2	
12	セーリング	1	
13	ウエイトリフティング	3	
14	ハンドボール	1	1
15	自転車	1	
16	ソフトテニス	1	1
17	卓球	1	1
18	相撲	1	—
19	馬術	1	
20	フェンシング	1	1
21	柔道	2	1
22	ソフトボール	1	1
23	バドミントン	1	1
24	弓道	1	1
25	ライフル射撃	1	
26	剣道	1	1
27	ラグビーフットボール	1	1
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	1	
30	アーチェリー	1	
31	空手道	1	1
32	銃剣道	1	
33	クレール射撃	—	—
34	なぎなた	—	1
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	1	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

計

61

令和5年度高等学校強化指定運動部

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	伊賀白鳳高等学校	四日市商業高等学校
		近畿大学工業高等専門学校	松阪商業高等学校
		皇學館高等学校	—
		四日市工業高等学校	—
2	水泳(競泳)	尾鷲高等学校	
	水泳(飛込)	—	—
	水泳(水球)	四日市中央工業高等学校	—
	水泳(AS)	—	—
3	サッカー	四日市中央工業高等学校	—
4	テニス	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
5	ローイング	相可高等学校	津商業高等学校
6	ホッケー	名張青峰高等学校	名張青峰高等学校
7	ボクシング	久居高等学校	
8	バレーボール	松阪工業高等学校	三重高等学校
9	体操(競技)	暁高等学校	
	体操(新体操)	—	—
10	バスケットボール	指定なし	指定なし
11	レスリング	いなべ総合学園高等学校	
		朝明高等学校	—
12	セーリング	津工業高等学校	
13	ウエイトリフティング	四日市工業高等学校	—
		四日市中央工業高等学校	—
		亀山高等学校	
14	ハンドボール	四日市工業高等学校	四日市商業高等学校
15	自転車	朝明高等学校	
16	ソフトテニス	三重高等学校	三重高等学校
17	卓球	白子高等学校	白子高等学校
18	相撲	宇治山田商業高等学校	—
19	馬術	高田高等学校	
20	フェンシング	海星高等学校	鳥羽高等学校
21	柔道	名張高等学校	名張高等学校
		四日市中央工業高等学校	—
22	ソフトボール	四日市工業高等学校	津商業高等学校
23	バドミントン	暁高等学校	皇學館高等学校
24	弓道	津工業高等学校	亀山高等学校
25	ライフル射撃	久居高等学校	
26	剣道	三重高等学校	鈴鹿高等学校
27	ラグビーフットボール	朝明高等学校	四日市メリノール学院高等学校
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	桑名西高等学校	
30	アーチェリー	四日市四郷高等学校	
31	空手道	川越高等学校	
32	銃剣道	皇學館高等学校	—
33	クレー射撃	—	—
34	なぎなた	—	稻生高等学校
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	津田学園高等学校	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	—	—
41	硬式野球	—	—

32校56部

チームみえスーパージュニア強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【9,000千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会等で活躍する中・高校生選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できるジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手を強化指定する。

(2) 指定期間

指定日から令和6年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。予算を超えた場合は三重県競技力向上対策本部事務局が別途協議の上、決定する。

4 年間計画

- 6月 第1次強化指定選手の推薦・選定・決定
- 10月 第2次強化指定選手の推薦・選定・決定

チームみえスーパージュニア強化指定事業 推薦要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「チームみえスーパージュニア強化指定事業」に係る強化指定選手の推薦募集をするため、必要な事項を定めるものとする。

2 推薦

推薦は、三重県競技力向上対策本部が推薦要領に基づき、各競技団体等に募集を行うものとする。

(1) 対象

国民体育大会やオリンピックの正式競技で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学・高等学校に在籍する選手。

(2) 推薦基準

全国・国際スポーツ大会で優秀な成績を収め、今後も同様の大会において活躍が期待でき、次の基準のいずれかを満たす選手。

- ① 令和 4 年度または令和 5 年度に日本代表選手として中央競技団体から選抜され国際大会^{*1}に出場した、もしくは出場が内定している選手。
- ② 令和 4 年度または令和 5 年度の全国大会^{*2}において、個人で優勝を収めた選手。
- ③ この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

※1 国際大会

- ア：オリンピック、アジア大会、世界選手権、アジア選手権
- イ：ユース五輪、世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会
- ウ：中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等
- エ：ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

※2 全国大会

- ア：国民体育大会、全日本選手権
- イ：全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ウ：全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会
- エ：ア・イ・ウと同じレベルと認められる大会

(3) 推薦方法

- ① 各競技団体は、「(2) 推薦基準」を満たした選手を三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。
- ② 県内に競技団体がないオリンピック正式種目は、上記「(2) 推薦基準」を満たした選手を所属する団体（クラブチーム等）が、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

三重県アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針
(MIE スーパー☆プロジェクト)

令和5年度当初予算【10,001千円】

1 目的

優れた資質を有する小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップ等の国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

ラグビーフットボール競技（男女）、自転車競技（男女）の2競技。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は三重県競技力向上対策本部事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

- 8月 タレントの募集開始（～11月上旬）
- 11月 オーディション実施
- 12月 選考部会、プログラム部会、運営委員会
「年間事業計画の決定」「アスリートタレントの決定」
- 1月 認定証授与式
- ※週2～3回程度の専門プログラムの継続実施
- ※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

トップアスリート応援事業 実施方針

令和5年度当初予算【11,000千円】

1 目的

国民体育大会を初めとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

2 対象

国民体育大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、今後の国民体育大をはじめとする全国大会や本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、転居をともなって三重県内の高等学校に入学し、令和3年4月および令和5年4月に本事業で認定した選手。

3 実施内容

給付金の給付

給付金は月額制とし、令和3年度認定選手は令和3年4月から3年間、令和5年度認定選手は令和5年4月から3年間給付する。

4 年間計画

(1) 令和3年度認定選手

4月 継続給付

3月 活動報告を確認

(2) 令和5年度認定選手

4月 継続給付

3月 活動報告を確認

トップアスリート応援事業 推薦要領

1 対象

国民体育大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、今後の本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、令和5年4月に県内の高等学校に入学した選手のうち、単身で下宿や寮生活をする選手。

2 推薦基準

国民体育大会をはじめとする全国大会において少年種別の中心選手として、活躍が期待できる選手とする。

- (1) 国民体育大会で実施される少年種別の正式種目の選手であり、令和5年4月に県内の高等学校に入学した選手のうち、単身で下宿や寮生活をする者。
- (2) 今後の国民体育大会において、各競技団体が設定する目標達成に必要な選手であるとともに、令和4年度に県代表として出場する全国大会や地区大会等で顕著な実績を有する者。
- (3) 入学後、競技力向上に意欲的に取り組むことができる選手。

3 募集人数

原則10名

4 推薦方法

各競技団体は、上記2の推薦基準を満たす選手を、三重県競技力向上対策本部内に設置する選考委員会（以下、「選考委員会」という）に推薦することができる。

5 その他

選手の選考については、各競技団体から推薦があった選手の中から、選考委員会が行う。

トップアスリート応援事業 「三重県民共済基金」実施方針

1 目的

国民体育大会をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

2 対象

国民体育大会で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むことができるとともに、将来、本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、令和4年4月に県内の高等学校に入学した選手のうち、単身で下宿や寮生活をする者。

3 実施内容

(1) 対象選手の推薦募集

各競技団体は、対象選手を三重県競技力向上対策本部に設置する選考委員会（以下、「選考委員会」という）に別紙推薦要領に基づき推薦することができる。

(2) 対象選手の選考

選考については、各競技団体からの提出書類を基に、選考委員会において行う。
なお、選考委員については、三重県競技力向上対策本部事務局が委嘱する。

(3) 給付金の給付

給付金の給付は、三重県民共済生活協同組合からの寄付金による「トップアスリート応援基金」を財源に実施する。各認定選手への給付金は月額制とし、令和4年4月から3年間給付する。

4 年間計画

- 3月 競技団体を通じて対象選手の推薦
選考委員会において対象選手を選考
- 4月 給付開始
認定証授与式

報告事項6-6-4
令和5年3月28日
トップアスリート応援事業選考委員会決定

令和5年度「トップアスリート応援事業」認定選手一覧

No	競技名	選手名	性別	出身県	進学先
1	セーリング	岡田 海洋	男	神奈川県	県立津工業高等学校
2	水球	山崎 唯	男	青森県	県立四日市中央工業高等学校
3	バスケットボール	吉田 陽香	女	福岡県	四日市メリノール学院高等学校
4	バスケットボール	岡本 悠太	男	岡山県	四日市メリノール学院高等学校
5	体操	竜田 裕奈	女	三重県	暁高等学校
6	ソフトテニス	南 龍之介	男	東京都	三重高等学校
7	剣道	酒匂 健販	男	大阪府	三重高等学校
8	レスリング	山内 悠妃	女	神奈川県	県立白山高等学校
9	バレーボール	古賀 ひなの	女	大阪府	三重高等学校

チームみえ国体選手強化事業 実施方針

令和5年度当初予算【190,000千円】

1 目的

鹿児島国体での天皇杯順位10位台前半を獲得するため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

2 対象

三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 競技団体ヒアリングを基に、戦力、強化計画について総合的に判断し、鹿児島国体における競技成績の見込や強化計画等に基づき、強化費を傾斜配分し、競技団体が実施する強化活動を支援する。
- (2) 支援期間は一年間とするが、本国体までの強化活動を重点的に支援する。
- (3) 各競技団体は、鹿児島国体での目標が達成できるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (4) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

- | | |
|-------|--|
| 4月 | 配分額の通知、交付申請書の提出
実施事業の支援（4月～本国体） |
| 9～10月 | 競技成績よる強化活動の検証と佐賀国民スポーツ大会に向けての活動計画の作成
実施事業の支援（本国体後～3月） |

女性アスリートサポート事業 実施方針

令和5年度当初予算【700千円】

1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

2 対象

三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体及びその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。

3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

4 年間計画

5月～2月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を実施

パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【8,700千円】

1 目的

パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍を目指して強化活動に取り組んでいる本県の選手を指定し、その活動を支援することで、更なる競技力の向上を図ることを目的とする。

2 対象

出身地・居住地・勤務地のいずれかを示す住所が本県であり、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする全国・国際スポーツ大会での活躍が期待される選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が行う。

(2) 指定期間

指定については、令和5年4月から令和6年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で補助する。

4 年間計画

- 4月 強化指定選手の決定
- 5月 指定証交付
- 随時 強化活動支援

パラリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「パラリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局が障がい者スポーツ関係団体との協議のうえ、作成した原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が選考を行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「パラリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえ、パラリンピック・デフリンピックをはじめとする国際大会での活躍が期待される選手であり、かつ、それぞれの指定基準を満たすものとする。

① S指定基準

令和 4 年度に日本パラリンピック委員会（以下、JPC）加盟競技団体から強化指定を受けた選手。

② A指定基準

以下のア～ウのいずれかを満たす選手。

ア JPC加盟競技団体から令和 4 年度に育成指定等^{※1}を受けた選手。

イ JPC加盟競技団体から令和 3 年度に強化指定を受けた選手。

ウ 令和 3 年度、令和 4 年度に開催された全国・国際スポーツ大会^{※2}において入賞実績がある選手のうち、上位の国際大会^{※3}参加標準記録を突破した選手、または、令和 3 年度、令和 4 年度に日本代表として JPC 加盟競技団体から選抜された選手。

※1 育成指定等 …強化指定選手の次に上位の区分のみ対象とする。

※2 国際スポーツ大会…ワールドツアー、オープン大会 等

※3 上位の国際大会 …パラリンピック、デフリンピック、世界選手権、アジア大会、アジア選手権 等

報告事項 6-9-3
 令和5年3月20日
 第19回競技力向上対策委員会決定

令和5年度パラリンピック等強化指定選手名簿

【S指定】

	名前	所属	競技(クラス)	前年度
1	稲垣 克明	住友電装株式会社	陸上競技 (T63クラス)	A指定
2	前川 楓	新日本住設株式会社	陸上競技 (T63クラス)	S指定
3	坂倉 航季	マクセルクレハ株式会社	水泳 (S14/SB14/SM14)	S指定
4	菰方 里菜	同志社大学	テニス	S指定
5	齋田 悟司	株式会社 シグマクシス・ホールディングス	車いすテニス	S指定
6	長谷川 勝久	県立こころの医療センター	テコンドー	A指定
7	岡田 和也	サイオネス・ヘルス・コマーシャル 株式会社	射撃	S指定

【A指定】

	名前	所属	競技(クラス)	前年度
1	井谷 俊介	SMBC日興証券株式会社	陸上競技 (T64クラス)	S指定
2	伊藤 智也	バイエル薬品株式会社	陸上競技 (T53クラス)	S指定
3	保田 明日美	パナソニック オペレーションナルエクセレンス 株式会社	陸上競技 (T63クラス)	A指定
4	相澤 稜翔	津田学園高等学校	水泳 (S9/SB9)	A指定
5	玉津 徹也	日本オラクル株式会社	卓球	A指定
6	望月 貴裕	中部電力ミライズ株式会社	射撃	A指定

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【12,600千円】

1 目的

国民体育大会や全日本選手権及び日本リーグ等で、三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームを指定し、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム。

3 実施内容

下記に示す指定基準をもとに判断し、国民体育大会や全日本選手権及び日本リーグ等における競技成績の見込等に鑑み、強化費を配分して競技団体が実施する強化活動を支援する。

(1) 指定期間

指定については令和5年4月から令和6年3月までの期間とする。

(2) 指定基準

競技団体が強化の中心として位置づけ、国民体育大会や全日本選手権及び日本リーグ等において三重県を代表するチームとして活躍が期待できるチームのうち、次の①及び②に該当するチーム。

ただし、競技団体がチームそのものとなる場合を除く。

① 団体競技は、国民体育大会に出場するチーム構成において、候補選手が複数名在籍しているチーム。

② 個人競技は、国民体育大会で入賞が見込める候補選手が複数名在籍しているチーム。

(3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

(4) 補助対象

全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|----|----------------------|
| 4月 | 強化指定運動部、企業・クラブチームの決定 |
| 5月 | 指定証交付 |
| 随時 | 強化活動支援 |

令和5年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る
 強化指定チーム

	チーム名	種別	競技名（種目名）
1	デンソー女子陸上長距離部	女子	陸上競技
2	伊賀FCくノ一三重	女子	サッカー
3	三重クラブ	男子	ホッケー
4	三重クラブ	女子	ホッケー
5	ヴィアティン三重	男子	バレーボール
6	ヴィアティン三重	女子	バレーボール
7	相好体操クラブ	—	体操（競技）
8	相好トランポリンクラブ	—	体操（トランポリン）
9	Revelize	女子	バスケットボール
10	ヴィアティン三重	男子	バスケットボール
11	三重バイオレットアイリス	女子	ハンドボール
12	エクセディ女子卓球部	女子	卓球
13	北勢ライディングファーム	—	馬術
14	三重ヴェルデウィン	男子	ソフトボール
15	株式会社安永弓道部	男子	弓道
16	三重県警察	—	ライフル射撃
17	三重県警察	—	剣道
18	PEARLS	女子	ラグビーフットボール

18チーム

オリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【2,700千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会等で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック及び国民体育大会に向けた成年選手の競技力向上を推進することを目的とする。

2 対象

オリンピックや国民体育大会における正式競技に取り組んでいる18歳以上の学生*で、オリンピックをはじめとした世界大会や、国民体育大会をはじめとした国内大会で活躍が期待できる選手。

※学生

①大学生②大学院生③専門学校生④高等専門学校生（4,5年生）⑤高等専門学校専攻科生

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「オリンピック等選手強化指定事業 選考要領」に基づき、三重県競技力向上対策本部が強化指定する。

(2) 指定期間

令和5年4月から令和6年3月までの単年度指定とする。

追加指定は、指定日から令和6年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- 4月 指定選手の決定
- 5月 指定証交付
- 8月 追加指定選手の決定
- 9月 追加指定選手の指定証交付
- 随時 強化活動支援

オリンピック等選手強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「オリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会で行うものとする。

(2) 選考基準

選考は、「オリンピック等選手強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、次の基準のいずれかを満たすものとする。

なお、大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の指定チームに所属する選手及び企業等に勤務している選手については対象外とする。

① 継続指定枠

ア 令和4年度に指定を行った選手で、令和3年度、令和4年度に開催された全日本選手権または令和4年度に開催された国民体育大会において入賞、もしくは令和4年度に開催された全日本学生選手権またはこれに相当する大会で3位以上の成績を収めた選手。

イ 上記大会より上位の大会において、顕著な成績を収めた選手。

ウ 令和4年度に指定を行った選手で、令和3年度、令和4年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会^{*}に出場した選手。

② 新規指定枠

本県代表選手の一員として、国民体育大会において入賞が見込め、原則以下のいずれかを満たす選手とする。

ア 令和4年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた選手。

イ 上記大会より上位の大会において、顕著な成績を収めた選手。

ウ 令和4年度または令和5年度に日本代表として中央競技団体から選抜され国際大会に出場した選手。

※国際大会

オリンピック、アジア競技大会、世界選手権、アジア選手権、
中央競技団体が代表を選抜するワールドツアー等

報告事項6-11-3
 令和5年3月20日
 第19回競技力向上対策委員会および
 令和5年5月26日
 競技力向上対策委員会書面協議 決定

令和5年度オリンピック等選手強化指定事業に係る強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	専門競技	指定枠
1	畑 翔太郎	21 (4年)	日本体育大学	水泳(水球)	継続
2	山田 凧航	21 (4年)	日本体育大学	水泳(水球)	継続
3	高木 藍	19 (2年)	順天堂大学	体操(競技)	継続
4	基山 仁太郎	23 (大学院2年)	日本体育大学院	レスリング	継続
5	稲垣 柚香	21 (4年)	至学館大学	レスリング	継続
6	藤波 朱理	19 (2年)	日本体育大学	レスリング	継続
7	伊藤 京介	20 (3年)	日本大学	自転車	継続
8	戸上 隼輔	21 (4年)	明治大学	卓球	継続
9	小久保 真旺	20 (3年)	法政大学	フェンシング	継続
10	城 公耀	19 (2年)	日本体育大学	水泳(水球)	新規
11	浪岡 菜々美	21 (4年)	日本体育大学	ソフトテニス	新規
12	舟田 葵	21 (4年)	帝京大学	空手道	新規
13	藤枝 乙葉	20 (3年)	愛知みずほ大学	ライフル射撃	新規

※年齢・学年は令和5年4月1日現在

トップアスリート就職支援事業 実施方針

令和5年度当初予算【11,000千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）に対し、県内企業等への就職支援を行い、社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備することで、国民体育大会を初めとする全国大会等で安定した競技力を確保することを目的とする。

2 対象選手

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として同大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに8位以上の成績を取めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリート等を採用する意思のある企業等とする。

4 実施内容

- (1) 就職支援を行ったトップアスリート等が社業と競技活動の両立を図りやすい環境を整備するために、採用企業と調整を行い、課題改善に努める。
- (2) 令和4年度以降も安定した競技力を確保するために、成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリート等の採用依頼を行う。
- (3) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (4) 競技団体から推薦のあったトップアスリート等に対し、書類審査を行う。
- (5) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリート等に対し、面談を行う。
- (6) 企業及びトップアスリート等に有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (7) 企業及びトップアスリート等に推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (8) 採用選考の調整を行う。
- (9) トップアスリート等が培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

5 年間計画

4月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

ふるさとタレントアスリート強化指定事業 実施方針

令和5年度当初予算【7,000千円】

1 目的

国民体育大会で活躍が期待できるふるさと選手を強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、競技力向上を推進することを目的とする。

2 対象

国民体育大会における正式競技に取り組んでいるふるさと選手で、国民体育大会での活躍が期待できる選手。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

別途定める「ふるさとタレントアスリート強化指定事業 選考要領」をもとに、三重県競技力向上対策本部が強化指定する。

(2) 指定期間

指定については令和5年4月から令和6年3月までの単年度指定とする。

(3) 補助対象

国民体育大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|----|------------------|
| 4月 | 強化指定選手の選考・決定 |
| 5月 | 指定証交付 |
| 随時 | 強化活動支援 |
| 3月 | 次年度の指定候補選手の選定・決定 |

ふるさとタレントアスリート強化指定事業 選考要領

1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ふるさとタレントアスリート強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

2 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) 選考基準

「ふるさとタレントアスリート強化指定事業 実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、次の①～④のすべての基準を満たす者とする。

- ① 各競技団体が国体の強化選手として位置づけ、国民体育大会での活躍を期待している選手。
- ② 各競技団体が競技団体ヒアリングにおいて、国民体育大会で入賞が見込める選手として取り上げた選手のうち、次の条件に適合する選手。
 - ア 令和 4 年度に高等学校を卒業した選手について
令和 3 年度、令和 4 年度に開催されたインターハイ、全国選抜大会、国民体育大会で上位入賞の実績のある選手。
 - イ 既に大学生、社会人等である成年種別の選手について
令和 3 年度、令和 4 年度に開催された全日本選手権、全日本学生選手権、国民体育大会またはこれに相当する大会で入賞の実績のある選手。
ただし、令和 3 年度に高等学校を卒業した選手は、令和 3 年度のインターハイ、令和 2 年度の全国選抜大会で上位入賞の実績も認める。
- ③ 国民体育大会（三重県予選を含む）に本県選手として出場する意思のある選手。
- ④ 他の強化指定事業と重複しない選手。

報告事項 6-13-3
 令和5年4月14日
 競技力向上対策委員会書面協議決定

令和5年度ふるさとタレントアスリート強化指定選手

	名前	所属	競技	指定枠
1	上山 紘輝	住友電工株式会社	陸上競技	継続
2	中西 啄真	大阪体育大学教員	陸上競技	継続
3	村上 輝	日本体育施設株式会社	陸上競技	継続
4	阪本 祐也	株式会社富士防	水泳(競泳)	継続
5	難波 暉	新東工業株式会社	水泳(競泳)	継続
6	小畑 莉音	早稲田大学	テニス	継続
7	堤 華蓮	慶應義塾大学	テニス	継続
8	堤 隆貴	関西大学	テニス	継続
9	丸山 愛以	明治大学	テニス	継続
10	山中 朝陽	明治大学	テニス	継続
11	吉岡 希紗	早稲田大学	テニス	継続
12	松岡 奈南	株式会社デンソー	ローイング	継続
13	津村 涼太	鹿屋体育大学	体操競技	継続
14	成國 大志	MTX GOLDKIDS	レスリング	継続
15	藤田 雄大	自衛隊体育学校	レスリング	継続
16	弓矢 暖人	日本体育大学	レスリング	継続
17	石井 未来	いちご株式会社	ウェイトリフティング	継続
18	近藤 拓空	関西学院大学	ソフトテニス	継続
19	村上 雄人	NTT西日本	ソフトテニス	継続
20	柏木 慈理	高野山大学	フェンシング	継続
21	新井 優太	日本体育大学	ソフトボール	継続
22	山田 莉瑚	日本体育大学	ラグビーフットボール	継続
23	廣下 菜月	中央大学	水泳(競泳)	新規
24	太田 空	法政大学	テニス	新規
25	上林 さくら	株式会社デンソー	ローイング	新規
26	長崎 奏人	日本体育大学	体操競技	新規
27	神谷 龍之介	日本体育大学	レスリング	新規
28	松田 魁利	東京国際大学	ウェイトリフティング	新規
29	松本 椿	同志社大学	ソフトテニス	新規
30	玉木 菜々	日本女子体育大学	なぎなた	新規
31	落合 凜星	福岡大学	なぎなた	新規
32	柘田 日菜果	トライアスロンクラブアルファ	トライアスロン	新規

スポーツ指導員配置事業 実施方針

令和5年度当初予算【139,177千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣することで、本県選手の競技力向上を図ること、また、トップアスリート等として成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいるトップアスリート等で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は3位以上、団体競技は8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※ 選手としての成績については、高等学校卒業後のものとする。但し、高校卒業時に採用する場合はこの限りではない。

3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部と公益財団法人三重県スポーツ協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 公益財団法人三重県スポーツ協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- | | |
|-----|----------------------|
| 4月 | 協定書の締結 |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

チームみえ・コーチアカデミーセンター事業 実施方針

令和5年度当初予算【24,810千円】

1 目的

- (1) 三重とこわか国体後の安定的な競技力を確保するために、優れたコーチデベロッパーと各年齢カテゴリー（以下、「各カテゴリー」とする。）におけるトップ指導者の養成を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図る。
- (2) 各カテゴリーを超えた指導者が幅広く交流することで、チームみえとしての一体感を醸成するとともに、一貫的な指導体系を構築し、日本一を目指す指導力と資質の向上を図る。
- (3) 日本を代表するトップアスリートを輩出することで三重県のスポーツ推進を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技の指導者で、令和4年4月から令和6年3月まで、2年間継続受講が可能な者のうち、(1)もしくは(2)のいずれかに当てはまる者。

(1) コーチデベロッパー（みえハイパフォーマンスコース）

令和3年度に本事業に参加している者のうち、国体の指導スタッフとして密接に関わるとともに、今後も競技団体における競技力向上の中心的役割を担う者。

(2) 3期生（みえスタートアップコース）

各競技団体から各カテゴリーの中心的な役割を担う指導者として位置付けられた者のうち、以下の①～③のいずれかに当てはまる者。

- ① 三重県の競技力の向上において、各カテゴリーの県代表または県選抜チームの中心的な役割を担う主たる指導者。
- ② 優れた競技実績を有するトップアスリートで競技生活の終了に伴い、今後、三重県の競技力の向上において、指導者として活躍が見込まれる者。
- ③ 各強化指定チームの主たる指導者で、各競技団体の競技力の向上において中心的役割を担う者。

3 選考

(1) みえハイパフォーマンスコース

1、2期生を対象に、受講意向のある者の中から指導実績や資質等を総合的に判断し、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) みえスタートアップコース

新規の受講生として各競技団体から推薦があった指導者について、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

4 実施内容

(1) みえコーチアカデミー

① みえハイパフォーマンスコース

- ・コーチとしての資質向上に向けた学びの継続。
- ・コーチデベロッパー（コーチ育成者）としての役割を学び、これまでの学びを活かした指導の実践と伝達。

② みえスタートアップコース

- ・三重とこわか国体以降の三重県スポーツの未来へ向けた多角的なテーマでの記念講演。
- ・国内トップクラスの講師を招聘した研修（コーチング論、医・科学サポート、情報戦略、県外研修等）。
- ・各種全国大会等に向けた各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言（カンファレンス）。
- ・県内外指導者の運動観察・実践指導。
- ・ICTでのディスカッション及び有識者による指導助言、相談窓口。

(2) みえマルチサポートシステム

- ・対象は両コース受講者。
- ・実践指導における指導体制上の課題解決に向けた様々なサポートの実施と検証。

(3) みえコーチングコミュニティ

- ・対象は両コース受講者。
- ・レガシーとしてのチームみえの一体感を継続するため、最新情報等の相互発信と共有。
- ・マガジンの発行及びSNSを活用し、本事業ディレクターから最新情報提供及び受講生の現況報告や取組の情報共有。

5 年間計画

6月	アカデミーⅣ
12月	アカデミーⅤ
3月	アカデミーⅥ
通年	県外研修、県内研修、ホームワークによるカンファレンス

令和5年度チームみえ・コーチアカデミーセンター事業
みえハイパフォーマンスコース受講生／コーチデベロッパー

番号	競技	所属	氏名
1	陸上競技	宇治山田商業高等学校	久保 幸弘
2	水泳（競泳）	神戸高等学校	山鹿 友昭
3	水泳（飛込）	稲生高等学校	池田 庸祐
4	水泳（水球）	あけぼの学園高等学校	松浦 靖郎
5	サッカー	桑名西高等学校	城 利英
6	テニス	四日市工業高等学校	徳丸 真史
7	テニス	四日市商業高等学校	金山 敦思
8	ローイング	相可高等学校	永野 景子
9	ホッケー	名張青峰高等学校	節句田 悟
10	ボクシング	久居高等学校	片山 太一郎
11	バレーボール	松阪工業高等学校	橋本 雅司
12	バスケットボール	四日市商業高等学校	伊藤 将伸
13	セーリング	津工業高等学校	伊藤 秀郎
14	ウエイトリフティング	亀山高等学校	石井 伸子
15	ハンドボール	四日市工業高等学校	織田 洋輔
16	ハンドボール	四日市商業高等学校	蛭川 健司
17	自転車	久居農林高等学校	松本 諒太
18	ソフトテニス	三重高等学校	玉川 裕司
19	卓球	白子高等学校	森 雅幸
20	卓球	白子高等学校	村上 悠馬
21	相撲	宇治山田商業高等学校	下里 匡希
22	フェンシング	鳥羽高等学校	松本 優
23	柔道	名張高等学校	稲澤 真人
24	ラグビーフットボール	朝明高等学校	保地 直人
25	アーチェリー	四日市四郷高等学校	久野 圭太
26	なぎなた	三重県なぎなた連盟	阪 明子

令和5年度チームみえ・コーチアカデミーセンター事業

みえスタートアップコース受講生／3期生

番号	競技	所属	氏名
1	陸上競技	松阪市立嬉野中学校	加藤 邦佳
2	水泳(競泳)	紀北健康センター	北村 周
3	サッカー	四日市市教育委員会	飯田 智也
4	テニス	三重グリーンテニスクラブ	後藤 理孝
5	体操	相好体操クラブ	外村 和才
6	バスケットボール	ヴィアティン三重	中西 康介
7	レスリング	いなべ総合学園高等学校	中田 陽
8	ウエイトリフティング	石薬師高等学校	玉城 圭尚
9	ハンドボール	いなべ総合学園高等学校	大畑 俊輔
10	ソフトテニス	明和町立明和中学校	米田 司
11	卓球	津市役所	山下 貴史
12	相撲	明野高等学校	佐藤 崇
13	馬術	高田高等学校	安藤 寛
14	フェンシング	鳥羽市立鳥羽東中学校	田崎 里花子
15	柔道	名張市立名張中学校	森田 知徳
16	ソフトボール	熊野市役所	武井 麻優
17	ラグビーフットボール	住友電装株式会社	伊藤 絵美
18	スポーツクライミング	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	小林 春彦
19	ゴルフ	津田学園高等学校	石井 正家

競技用具等整備事業 実施方針

令和5年度当初予算【3,000千円】

1 目的

国民体育大会や全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

2 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民体育大会における正式競技とする。

3 整備対象競技用具等

- (1) 競技力向上に必要と認められるもの。
- (2) 選手が大会等で直接的に使用するもの。
- (3) 高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- (4) 既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。

4 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備を希望する競技団体は県に申請を行う。
- (2) 県は競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、選定委員会において適当と認められた競技用具等を購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を原則負担する。

競技団体・チームサポート事業 実施方針

令和5年度当初予算【3,060千円】

1 目的

運営や経営に関する課題を抱える競技団体やチームに対し、専門的な知識やノウハウを持った人材をアドバイザーとして派遣し、組織力や経営力を高めることで、持続的な運営や経営ができる体制強化を図ることを目的とする。

2 対象

- (1) 公益財団法人三重県スポーツ協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体。
- (2) 三重県競技力向上対策本部設置以降、国民体育大会の正式競技において、新たにクラブチームを設立し、成年種別の強化の中心として強化指定されたチーム。

3 選考

(1) 選考方法

三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会が行うものとする。

(2) 選考基準

対象となる競技団体やチームのうち、次の条件を満たすもの。

- ① 組織力や経営力を高めるために、体制強化が必要な競技団体やチーム。
- ② 派遣されたアドバイザーとの連携を十分に図ることができる競技団体やチーム。

4 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部は、競技団体やチームからの申請に基づき、運営や経営に関する知識やノウハウを持ったアドバイザーの派遣を行う。
- (2) 競技団体やチームは、アドバイザーから得た知識やノウハウを活用し、以下の事項に取り組む。
 - ① 競技団体
 - ア 競技団体の組織力の強化。
 - イ 各地域の行政機関や団体等との連携強化。
 - ウ ジュニア選手の発掘や、成年選手、少年選手の育成・強化を行う仕組みの構築。
 - ② チーム
 - ア チームの運営体制の強化。
 - イ スポンサー企業等の獲得。
 - ウ その他、チームの運営に係る財源等の確保。
- (3) アドバイザーの派遣に係る旅費や報償費を予算の範囲内で支出する。

対象競技団体・チーム一覧

【競技団体】

競技団体名	競技名
三重県ホッケー協会	ホッケー

1団体

【チーム】

チーム名	競技名（種別）
ヴィアティン三重	バレーボール（成年女子）
三重ヴェルデウィン	ソフトボール（成年男子）

2クラブ

みえのアスリート応援・発信事業 実施方針

令和5年度当初予算【7,612千円】

1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成することを目的とする。

2 実施内容

(1) 広報紙の作成

国民体育大会をはじめとする全国大会や国際大会等で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙を作成し、年2回程度発行する。

〔配布先〕

- ・県内の中学校・高等学校の生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

(2) チームみえポロシャツの配付

県代表選手の活躍を啓発できるよう、ポロシャツを作成しチームみえとしての士気を高めるとともに、一体感を醸成を図る。

3 年間計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 7月・12月 | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |
| 9月 | チームみえ啓発グッズ等作成 |

三重県競技力向上対策本部規約改正（専決処分）

<p>(変更前)</p>	<p>第5章 第13条 本部の事務を処理するため、三重県<u>地域連携部</u>スポーツ推進局内に事務局を置く。</p>
<p>(変更後)</p>	<p>第5章 第13条 本部の事務を処理するため、三重県<u>地域連携・交通部</u>スポーツ推進局内に事務局を置く。</p>

令和5年度暫定予算(専決処分)

(令和5年4月1日～6月27日)

1 収入

(単位:千円)

科目	令和5年度 当初予算案	暫定予算	備考
負担金	341,527	277,301	三重県負担金
計	341,527	277,301	

2 支出

(単位:千円)

科目	令和5年度 当初予算案	暫定予算	備考	
事業費	会議費	4,608	1,843	対策本部会議費等に要する経費
	チームみえスーパージュニア強化指定事業	9,000	3,600	6月27日までの交付決定見込額
	チームみえ国体選手強化事業	190,000	190,000	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	三重県アスリートタレント発掘・育成事業	10,001	2,000	6月27日までの教育育成プログラム経費等
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	12,600	6,300	6月27日までの交付決定見込額
	オリンピック等選手強化指定事業	2,700	1,080	6月27日までの交付決定見込額
	パラリンピック等選手強化指定事業	8,700	3,480	6月27日までの交付決定見込額
	ふるさとタレントアスリート強化指定事業	7,000	2,800	6月27日までの交付決定見込額
	トップアスリート応援事業	11,000	1,890	6月27日までの給付見込額
	みえのアスリート応援・発信事業	7,612	3,045	広報誌発行、応援物品発注等
	競技団体・チームサポート事業	3,060	918	6月27日までの旅費・報償費執行見込額
	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	24,810	9,924	研修等に係る経費 6月27日までのマルチサポート執行見込額
	チームみえジュニア育成事業	37,257	37,257	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
	高等学校運動部強化指定事業	13,154	13,154	4月1日付けで県スポーツ協会と委託契約
事務局費	25	10		
計	341,527	277,301		

審 議 事 項

そ の 他
(情報共有事項 他)

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：19名、計：21名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県地域連携・交通部スポーツ推進局長	山川 晴久

【副委員長：1名】敬称略

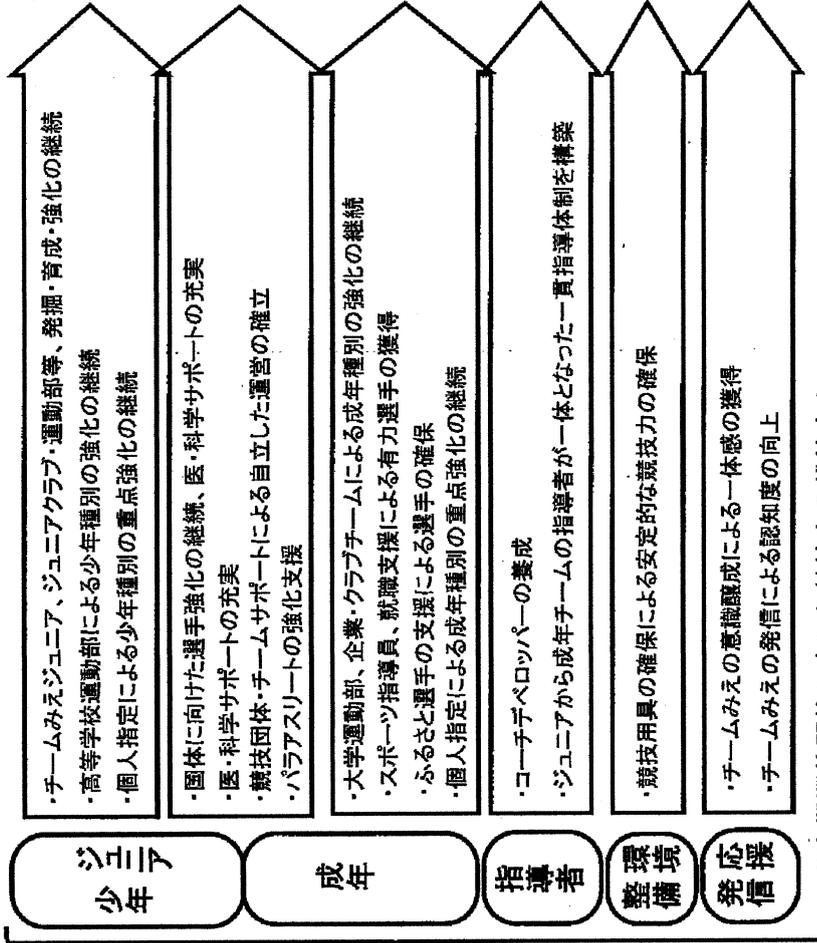
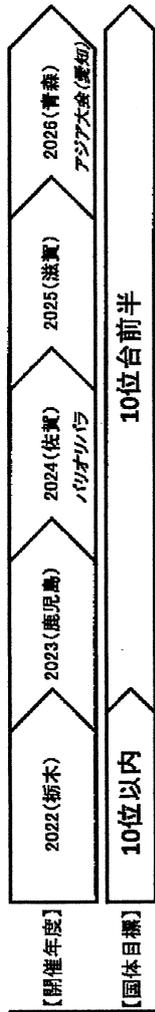
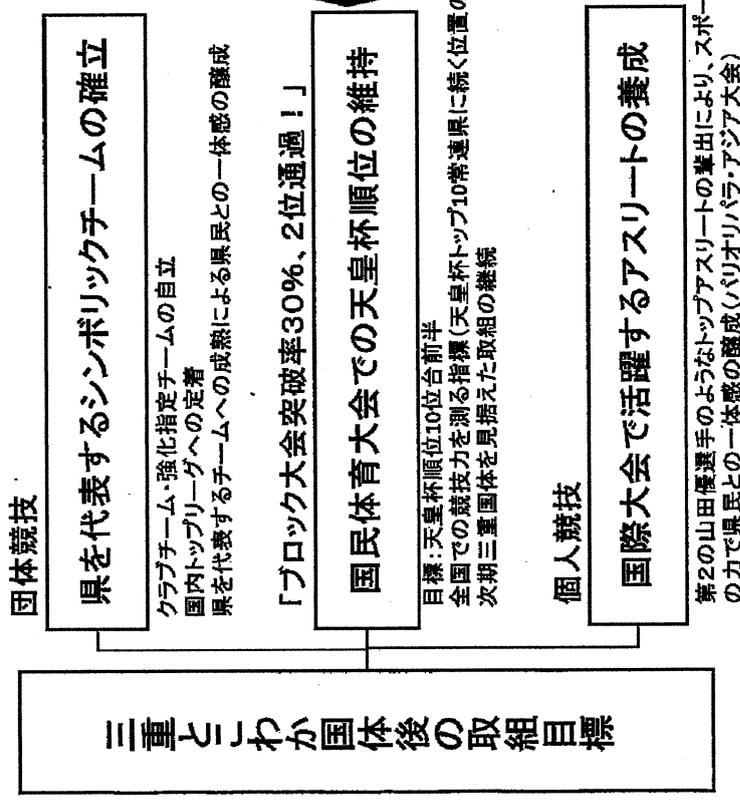
選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会副会長	村木 輝行

【委員：19名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	名前
県関係	三重県教育委員会事務局次長	山添 達也
市町関係	四日市市シティプロモーション部次長兼スポーツ課長	田中 敦
	明和町参事兼総務防災課長	朝倉 正浩
産業・経済関係	株式会社エクセディ上級執行役員グローバル人材開発本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	滝 文隆
	本田技研工業株式会社四輪・電動総務部鈴鹿総務課長	松本 周一
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
	住友電装株式会社総務部長	木下 勝善
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県スポーツ協会強化・普及委員会委員長	松澤 二一
	三重県中学校体育連盟会長	北村 浩久
	三重県高等学校体育連盟会長	嶋田 和彦
	伊賀FCくノ一三重サテライトU15監督	那須麻衣子
	県立津工業高等学校ヨット部顧問	伊藤 秀郎
	株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ常務取締役	椎葉 誠
	中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科准教授	草薙 健太
	三重高等学校女子ソフトテニス部顧問	村田真紀乃
三重県障がい者スポーツ協会事務局長	森川 幸則	
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院整形外科・リハビリテーション科部長 スポーツ医学センター長	福田 亜紀
	日本体育大学体育学部教授	杉田 正明

三重県競技力向上対策本部の競技力向上に係る取組方針

競技力向上対策本部の存続
 (目標設定、課題分析、取組評価・指導・助言)
 ~Go Forward チームみえ!~
 「これまでに積み重ねたノウハウを引き継ぎ目標に向かって前進する」



※次期国体開催に向けた競技力の維持向上

抜 粋

第3次三重県スポーツ推進計画

令和5（2023）年度～令和8（2026）年度

スポーツを通じて「人」「地域」を結ぶみえ

～スポーツを「楽しむ」 三重の環^わ～

令和5（2023）年3月

三重県

第4章 計画の基本方針

1 計画のめざす姿

スポーツを通じて「人」「地域」を結びみえ ～スポーツを「楽しむ」 三重の環^わ～

昨今、人口減少・少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症の拡大など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、国際的に見てもSDGsへの貢献など、持続可能な社会や共生社会の実現に向け、スポーツの持つ力を活用した取組が求められています。

また、県民の皆さんの健康志向は高まっており、幼少期から高齢期まで一生涯スポーツにふれ親しむ機会が求められていること、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがともにスポーツに取り組むことが求められていることから、地域の絆づくりにおいて、一体感の醸成などスポーツの持つ力に期待が寄せられています。

このような中、すべての県民の皆さんがスポーツの価値を広く享受し、一人ひとりがふるさと三重に愛着と誇りを持ち、豊かで充実した生活を送ることができる社会づくりが必要です。「第3次三重県スポーツ推進計画」では、県民の皆さんがスポーツを楽しみ、スポーツとともに人生を歩みつつ、スポーツを通じて「人と人」「人と地域」「地域と地域」の絆を深める取組を進めます。

2 推進施策の方向性

【推進施策1】

スポーツにふれ親しむ環境づくり ～いつまでも「楽しむ」～

県民の皆さんが、スポーツによる「楽しさ」を享受できるよう、生涯にわたって運動・スポーツにふれ親しむ環境づくりを進めます。スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、社会情勢や個々人の置かれた状況に応じた取組を進めます。また、障がい者スポーツの裾野の拡大を進め、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツに参加できる環境づくりを進めます。

【推進施策2】

スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～

スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

【推進施策3】

スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現 ～誰もが「楽しむ」～

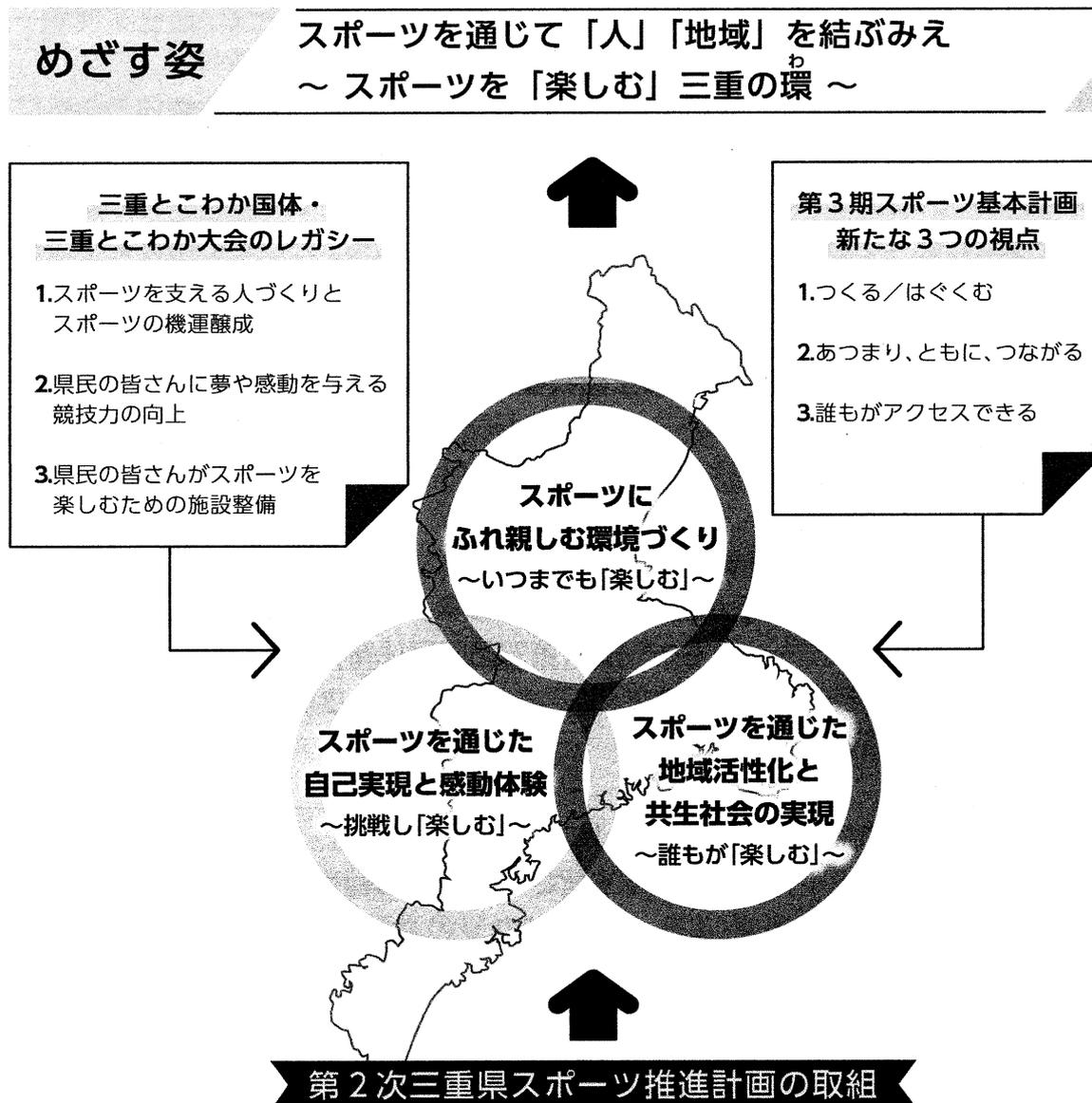
スポーツの持つ力で人や地域の交流を促すとともに、県営スポーツ施設の計画的な整備を進め、地域の活性化につなげていきます。また、障がいの有無、国籍・文化的背景や性的指向・性自認などにかかわらず、多様な主体が「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の視点から、安心してスポーツを楽しめる環境づくりを進めることで、共生社会の実現につなげていきます。

【推進施策と新たな3つの視点の関係】

推進施策	取組名	新たな3つの視点		
		つくる／はぐくむ	あつまり、ともに、つながる	誰もがアクセスできる
1 スポーツにふれ親しむ環境づくり～いつまでも「楽しむ」～	(1)子どもたちが運動・スポーツに親しむための取組の拡充	○		
	(2)これからの学校スポーツと地域連携・地域移行	○		○
	(3)生涯を通じたスポーツ機会の充実と健康づくりの推進	○		
	(4)障がい者スポーツの裾野の拡大		○	
	(5)地域スポーツの担い手の養成・資質向上	○		○
2 スポーツを通じた自己実現と感動体験～挑戦し「楽しむ」～	(1)未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成			○
	(2)選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上	○		○
	(3)三重県を代表するチームの強化支援		○	○
	(4)県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援			○
	(5)国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援			○
3 スポーツを通じた地域活性化と共生社会の実現～誰もが「楽しむ」～	(1)三重とこわか国体・三重とこわか大会のレガシー継承・発展	○	○	○
	(2)安全・快適なスポーツ環境の提供		○	○
	(3)スポーツを通じた交流やスポーツツーリズムの促進		○	○
	(4)スポーツを通じた共生社会の実現	○	○	○

※表中の「○」印は、各推進施策の取組において特に関わりが深い「新たな3つの視点」を示しています。

【推進施策の取組イメージ】



【推進施策2】**スポーツを通じた自己実現と感動体験 ～挑戦し「楽しむ」～**

競技スポーツは、人間の可能性の極限を追求し挑戦することで、自己実現や一人ひとりの豊かな人生の形成に寄与します。

目標を持ってスポーツに取り組む（「する」）ことは、自立心や精神の涵養につながり、努力を重ねて勝つ「喜び」やスポーツの「楽しさ」を得ることができます。また、勝敗にかかわらず相手を称える気持ちを養うことは、心身の健やかな成長にも寄与するものです。さらに、「みる」「支える」人びとに感動を与え、スポーツを「楽しむ」といった側面があります。

本県では、平成25（2013）年に三重県競技力向上対策本部を設置し、令和3（2021）年に開催予定であった三重とこわか国体（第76回国民体育大会）をはじめ、国内外の数々の大会で活躍できる三重県選手・チームの育成・強化に取り組んできました。

令和3（2021）年夏に開催された東京2020オリンピック競技大会には過去最多19名の三重県ゆかりの選手が出場し、金メダリストを輩出しました。また、令和4（2022）年のいちご一会とちぎ国体（第77回国民体育大会）では男女総合成績12位となり、昭和50（1975）年開催の三重国体の優勝、さらにその翌年の9位に次ぐ3番目の好成績を収めました。

『推進施策2』では、スポーツを「つくる／はぐくむ」「誰もがアクセスできる」の視点から、アスリートをめざす皆さんの強化活動を支援することで、競技スポーツの推進を図ります。また、三重県ゆかりの選手・チームの活躍を通じて、県民の皆さんに夢や感動を届け、県民の郷土への愛着や誇りを高めます。

- ・選手の将来を見据えた長期的な視点から、次世代を担うジュニアアスリートの発掘・育成や優れた指導者の養成・資質向上に取り組めます。
- ・三重とこわか国体に向けて培った競技力向上のノウハウを生かし、三重県ゆかりのトップアスリート、パラアスリート、チームの強化活動を支援します。

<取組内容>

- (1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成
- (2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上
- (3) 三重県を代表するチームの強化支援
- (4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援
- (5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【SDGsへの貢献】

	目標	スポーツの貢献
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	<p>すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>小中学校・高等学校・高等教育機関において、公平で質の高い体育・スポーツ教育を受けることは、一生涯の健全なライフスタイルの確立につながります</p>
 <p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p>	<p>ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	<p>女性のスポーツ参画に取り組むことは、ジェンダー平等の実現に寄与します</p>
 <p>10 国内及び国家間の 不平等をなくそう</p>	<p>国内および国家間の不平等を是正する</p>	<p>スポーツは世界共通の文化であり、国内外の地域間格差など不平等の解消に役立ちます</p>

(1) 未来を拓くジュニアアスリートの発掘・育成

【現状・課題】

- ・将来を担うジュニア選手（小中学生）については、競技人口の少ない競技の選手の発掘・育成、ジュニアクラブ・高等学校運動部の強化指定による拠点化、選手の将来を見据えた一貫指導体制の構築など、長期的な視点での支援が必要です。

【取組の方向性】

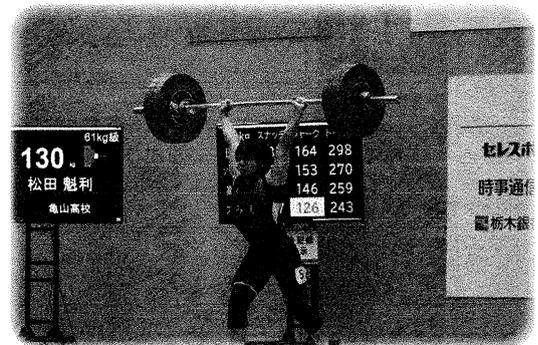
- ・競技人口の少ない競技については、将来、国民体育大会やオリンピック等で活躍が期待される優れた資質を有するジュニア選手の発掘・育成を行います。
- ・ジュニアクラブ・高等学校運動部を指定し、国民体育大会等で少年種別の中心となる選手の育成・強化を支援します。
- ・全国大会等で活躍が期待されるジュニア選手を「チームみえジュニア」として指定し、強化活動を支援します。
- ・選手の将来を見据えた長期的な観点から指導者を育成し、少年期から成年期までの一貫した指導体制を構築します。

【具体的な取組内容】

- ・小中学生を対象とするスポーツ体験会などを通じて、優れた資質を有し、国民体育大会やオリンピック等で中心となる次世代の選手を発掘します。
- ・国民体育大会等で活躍が期待されるジュニア選手やジュニアクラブ等を指定し、強化活動を支援します。
- ・国民体育大会等で活躍するトップアスリートの育成をめざし、育成・強化の中心となる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援します。
- ・少年期から成年期までの幅広い年齢層に応じて適切な指導ができる優れた指導者を養成し、一貫した指導体制を構築します。



タレント発掘プロジェクト
(女子ラグビー)



国民体育大会で活躍するジュニア選手
(ウエイトリフティング)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	70件	165件	国民体育大会、全国高等学校総合体育大会、全国中学校体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・ジュニア・少年選手から成年選手まで幅広い年齢層における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・幅広い年齢層において安定した競技力を確保する観点から、165件と設定しました。

(2) 選手の可能性を引き出す優れた指導者の養成・資質向上

【現状・課題】

- ・三重とこわか国体ののちも安定した競技力を確保するため、ジュニア選手から成年選手まで、幅広い年齢層に応じた指導ができる指導者を養成するとともに、一貫的な指導体制の構築を図っています。さらに、指導者を育成する指導者「コーチデベロッパー」の養成に取り組んでいます。
- ・将来を見据え、長期的な視点で選手の競技力を向上させるには、幅広い年齢層に応じた適切な指導ができる優れた指導者の養成・資質向上・拡充を図る必要があります。
- ・少年期から成年期までの一貫した指導体制づくりが不可欠です。

【取組の方向性】

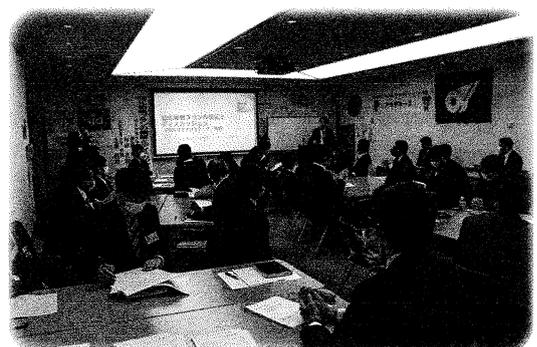
- ・県内指導者の資質向上を図るための研修を行うことで、指導者の拡充、一貫的な指導体制の構築を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・日本一をめざす指導力の獲得と資質向上を図るため、チームみえ・コーチアカデミーセンター事業において国内トップクラスの講師を招へいし、コーチング論や医・科学サポートなど科学的根拠に基づいた指導法や、指導者のスポーツ・インテグリティの確保などに関する研修を行います。
- ・競技力向上の中心的役割を担い、今後の本県の指導者を育成する者としてコーチデベロッパーを養成し、優れた指導者の拡充を図ります。
- ・指導者が各カテゴリーを超えて交流することでチームみえの一体感を醸成し、一貫的な指導体制を構築します。



チームみえ・コーチアカデミー
(3期生・スタートアップミーティング)



チームみえ・コーチアカデミー
(アカデミーⅠ・Ⅱ・Ⅲ)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
新たな指導者の拡充	39人	80人	「チームみえ・コーチアカデミーセンター事業」を受講し、新たに指導者となった人数（累計）

<選定理由>

- ・チームみえ・コーチアカデミーセンター事業の取組による指導者養成の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・安定した競技力を確保する観点から、今後の受講者（養成者）数を見込み、設定しました。

(3) 三重県を代表するチームの強化支援

【現状・課題】

- ・成年選手の重点的な競技力向上を図るため、本県を代表するチームとして全国での活躍が期待できるチームを指定し、支援しています。
- ・競技団体やクラブチームによっては、運営基盤が弱く、組織の持続的な運営に課題を抱えている場合があります。組織力や経営力を高め、体制強化を図るため、運営に課題を抱える競技団体やクラブチームを支援しています。

【取組の方向性】

- ・全国での活躍が期待できるチームを指定し強化活動を支援することで、本県選手の競技力向上を図ります。
- ・持続的な運営が可能となるよう、専門性を有するアドバイザーを派遣することで、競技団体やクラブチームの体制強化を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業により、国民体育大会等での活躍が期待される本県を代表するチームを指定し、強化活動に要する経費を支援することで、重点的に成年選手の競技力向上を図ります。
- ・成年種別の中心として強化指定したチームのうち、運営や経営に関する課題を抱える競技団体やクラブチームに対し、専門的な知識やノウハウを持ったアドバイザーを派遣し、体制の強化を図ります。

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
全国大会の入賞数	- (中止)	105件	国民体育大会における、団体・個人の入賞数

<選定理由>

- ・成年選手における本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・成年選手において安定した競技力を確保する観点から、105件と設定しました。

(4) 県民に夢や感動を与えるトップアスリートの育成・強化支援

【現状・課題】

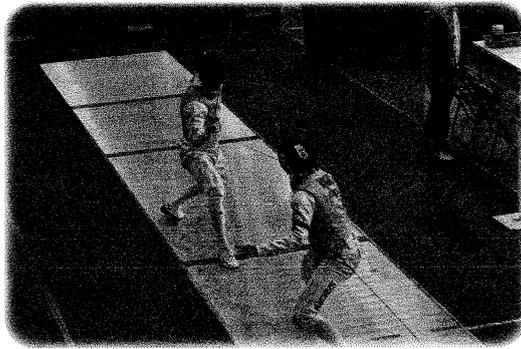
- ・選手やチーム、競技団体が行う強化活動への支援や、企業関係団体等と連携したトップアスリート・指導者の県内定着などに取り組んでいます。
- ・これまで積み重ねてきた競技力向上のノウハウを生かした選手・チームへの支援が必要です。
- ・三重とこわか国体が中止となったものの、引き続き、国民体育大会での男女総合成績10位台前半を維持するため、選手・チームの安定的な競技力の確保が必要です。

【取組の方向性】

- ・選手・チームの課題を把握し、実力を引き上げられるよう、競技団体や本県を代表するチーム等の強化活動を支援します。
- ・選手が大会で実力を発揮できるよう、医・科学の専門スタッフを競技団体等に配置するなどの支援を行います。
- ・女性アスリート特有の諸課題に関する研修を実施し、知識習得・意識向上を図ります。
- ・企業関係団体等と連携した就職支援により、トップアスリート・指導者の県内定着を図ります。

【具体的な取組内容】

- ・国民体育大会で活躍が期待される代表選手（チームみえ）やオリンピック等の国際大会で活躍が期待される選手が行う強化活動を支援するとともに、選手が実力どおりのパフォーマンスを発揮できるよう医・科学の専門スタッフを派遣するなどの支援を行います。
- ・スポーツ・インテグリティの確保に向け、関係団体と連携し、ドーピングの禁止やハラスメントの防止などの注意喚起を図ります。
- ・女性アスリートが継続して競技に取り組むことができるよう、研修を通じて女性特有の諸課題に関する知識の習得や意識向上を図ります。
- ・安定した競技力を維持できるよう、全国大会や国際大会で活躍するトップアスリートや指導者に対し、県内企業等と連携して就職支援を行い、県内への定着を図ります。



国民体育大会で活躍する三重県選手
(フェンシング)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(トライアスロン)



国民体育大会で活躍する三重県選手
(レスリング)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
国民体育大会の 男女総合成績	- (中止)	10位台前半	国民体育大会における正式競技の参加点（ブロック大会を含む）と冬季大会及び本大会の競技得点の合計による都道府県ごとの男女総合順位

<選定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定的な競技力を確保することをめざしており、各県の競技力を示す指標であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

- ・三重とわか国体ののちも安定した競技力を確保する観点から、（大都市圏などの常連県に次ぐ位置として）10位台前半と設定しました。

(5) 国際大会や全国大会で活躍をめざすパラアスリートの強化支援

【現状・課題】

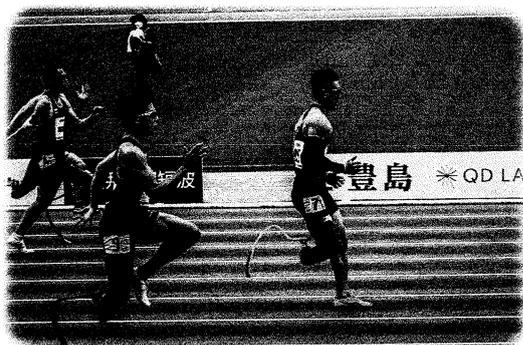
- ・競技力向上を図るため、パラリンピック等の国際大会や全国大会で活躍が期待される一定の競技力を有する選手を指定し、強化活動を支援しています。
- ・競技によっては、パラスポーツを専門とするコーチや、同じレベルの練習パートナーが県内に不足しており、活動拠点を県外や海外に求めざるを得ない場合があります。
- ・競技用具の機能や調整具合が勝敗を分けることがあり、個々の競技の特性をふまえたきめ細かな支援が必要です。

【取組の方向性】

- ・一定の競技力を有する選手に対し、強化活動の支援を行います。
- ・選手に応じたきめ細かな支援を行うため、選手一人ひとりの状況把握に努め、求められる支援のためのノウハウや経験を蓄積します。

【具体的な取組内容】

- ・パラリンピック等の国際大会や全国大会での活躍をめざして強化活動に取り組む本県選手のうち、国際大会や全国大会で入賞するなど一定の実績（競技力）を有し、パラリンピック等での活躍が期待される選手を指定し、遠征費や大会参加料、競技用具の購入、医・科学スタッフの派遣など、強化活動を支援します。
- ・強化支援による成果や選手それぞれが求める支援について、選手に聴取りを行い、さらなる支援の充実を図ります。



日本選手権で活躍する三重県選手
(陸上競技)

【KPI（重要業績評価指標）】

項目	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	目標項目の説明
パラアスリートの 全国大会の入賞数	35件	41件	ジャパンパラ競技大会、日本選手権に おける、団体・個人の入賞数

<選定理由>

・パラアスリートにおける本県の競技力向上対策の取組の成果があらわれる数値であることから選定しました。

<目標値の設定理由>

・東京2020パラリンピック競技大会及び三重とこわか大会に向け高まった、県内選手の競技力を維持・向上させるため、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度まで(令和2(2020)年度を除く)の入賞数実績の平均値等を参考に、令和8(2026)年度の目標値を41件と設定しました。

(そ の 他)

